



みらいつうしん

4月号

令和3年4月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦 芳子

:° ☆, ::★, :*:° ★.° *:*:。., : : *



ご入園・ご進級おめでとうございます

さわやかな風が心地よく、春の花の美しさに心癒される今日この頃でございます。

いよいよ、令和3年度がスタートいたしました。本年度は、59名の新入園児を迎え、総数208名の園児達がみらいこども園で、乳幼児期の生活を送ります。子ども達と一緒に過ごせることをとても嬉しく思い感謝いたします。引き続き、本園の理念である「みらいこども園は、子どもも大人も尊重され生きる喜びが持てる場所です」を基本として、園児一人一人が、遊びを通して好きなことを見つけ、主体性をもって園生活を送り、友達を思いやり尊重しながら個々の資質や能力を育ていけるように職員一丸となって環境を整えて参りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、昨今、感染症の脅威が迫る影響で、人との関わりが困難になった状況の中、孤独感を感じ、情緒の不安を訴える人々が増えていることを耳にします。大人ばかりではなく、特に乳幼児期においても、人との関わりは、成長していく中で重要なものです。こども園は、人とのつながりを大切に考え、「力強く生き抜く力」「生涯にわたる人格形成の基礎」を培うために、保育者と子どもの対話的関係を築き、深い学びが出来るように日々努力しています。中でも、特に着目するのは『挨拶』です。挨拶は、相手の存在を認めて関係性を良くしていく第一歩ですから、朝の挨拶から大切にしていき、子ども達が、毎日の生活の中でたくさんの友達に出会い、人の関わりの一部として、『挨拶』を習慣として根付かせて行きたいと思ひます。朝、登園したら、「おはよう」何かをしてもらったら、「ありがとう」は、これからの人生においても必要ですので、特に大切にしたいと思ひます。どうぞ、保護者の方も笑顔で、挨拶をしていただき、子どもの良い手本となってください。職員も保護者の方にお声をたくさんおかけし円滑なコミュニケーションが取れるよう努力いたします。また、4月は新しい生活の始まりですので、子ども達は、ドキドキ感とワクワク感を交差しながら、緊張や不安でいっぱいだと思います。一生懸命新しい環境に足を踏み出し、孤軍奮闘していますので、園から帰ってきたら、お子様をぎゅっと抱きしめてあげ、「今日は頑張ったね。」と声をかけてあげてください。これが、親子の絆を深く結び付け、愛着形成に繋がります。どんなときも未来に向けて成長をし続け、笑顔をくれる子ども達と過ごす時間を大切に、子育てをしていきましょう。

みらいこども園が、子どもたちの大好きな場所であり、保護者の皆様が安心して預けられる施設として、園児一人ひとりにとってふさわしい集団生活の場であることを目指し、職員一同が力を合わせて教育保育に取り組む所存です。皆様のご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。 勝浦

4月の出会いは、草花の芽吹きのような新鮮な感覚をもたらします。先日、新一年生となった修了児がランドセル姿で挨拶に来てくれました。新たな表情に出会うことで毎年晴れ晴れしい気持ちになります。進級したお子さんの自信をつけたような表情、新入園児さんの戸惑いの様子などにも新たな出会いを感じながら、一人一人のお子さんが新しい場所で安心して生活しチャレンジできる環境を作っていきたいと思ひます。中城真由美



4月はたくさんの『どうしよう…』という場面に出会います。つい、何かをしてあげたくありませんが、(自分で)何をしたいのか、(私に)何をしてほしいのか、「手伝って」なのか「今は見ていて」なのか、子どもの思っていることを感じ取って応えていけるよう、日々考えていきたいと思ひます。 柳鶴聡美

新しい環境に戸惑い、涙することがありますが、保育者の顔を見てニコリ微笑む姿も少しずつ見られています。泣いたり笑ったり怒ったりと、さまざまな感情を安心して出せる場所になれますよう、一日一日を丁寧に過ごしていきたいと思ひます。 三ツ橋知子